

(参考様式1)

邑南地区 元気な地域づくり計画書

都道府県名	市町村名	地区名	計画期間	事業実施期間
島根県	邑南町	邑南地区	平成18～22年度	平成19～22年度

(農業地域類型)

都市的地域	平地農業地域	中間農業地域	山間農業地域
			○

(地域指定)

特定	山村	過疎	半島	離島	沖縄	奄美	小笠原
○	○	○					

1. 元気な地域づくりのテーマと目標

テーマ	<ul style="list-style-type: none">・情報基盤整備 農業の高度化と地域の活性化を推進するため、公共施設、農業協同利用施設、農家等を結ぶ高度な情報通信ネットワークを構築し、農業情報を含む行政情報、生活情報、緊急防災情報等の提供を行う基盤として、高速、大容量及び双方向の通信を可能にするFTTHによるケーブルテレビの施設整備を行う。・基盤整備促進(農道「農道環境整備」) 山と川の連携による地域づくり。
-----	--

目標

・情報基盤整備

- (1) 高度情報化で築く、利便性の高い町
- (2) 高度情報化で活かす、新しい農業の町
- (3) 高度情報化で結ぶ、暮らして安心の町
- (4) 高度情報化で創る、心豊かに学ぶ町
- (5) 高度情報化で夢語る、新コミュニティの町

・基盤整備促進(農道「農道環境整備」)

- (1) 交流資源を活かした地域農業の育成

2. テーマ及び目標設定の考え方

①地区の概要

・情報基盤整備

邑南町は、島根県中南部に位置し、総面積419.2平方kmの広大な地域である。地域とその周辺の気候は日本海性気候に属し、かつ山地性の気候で夏に雨が多く、日中と夜間の温度差が大きい山間地特有の気候である。また、夏から秋にかけては多雨多湿であり、冬季は降雪も多い。古来からこの地域は、豊富な食料資源や砂鉄、木材等の産業資源に恵まれ、陰陽交通の要衝としてにぎわい、今でも鉄穴流し等で作られた棚田やたたら製鉄の遺構、農具等の民族資料、神楽をはじめとする伝統芸能等、有形・無形の文化財が数多く残されている。

近年では、高度経済成長期に人口が激減し、少子高齢化が急速に進展している。特に基幹産業である農業では、兼業化が進み、後継者不足に加えて高齢化の進行や栽培意欲の低下などにより守りの農業の傾向が続いている。そうした環境の中でも新規振興作物の導入や集団営農が取り組まれ、農作業受委託等を通じ農地の維持保全と機械設備の過剰投資を防ぐための取り組みがなされ、また、棚田を利用したオーナー制度の導入や広島県内の消費者との交流活動等により、都市住民との交流も徐々に進められている。

今後の農村地域の活性化のためには、より効率的農業経営の展開、防災、福祉、教育等の農村生活環境の向上、地域コミュニティ活動の活性化及び都市住民への情報発信による交流促進が求められており、農村地域における情報通信技術の有効的な活用は、魅力ある農山村づくりへとつながる。

このような視点から、新町のまちづくりの基本理念は「夢響きあう 元気の郷づくり」とし、この地域に住む全ての人がともに手を携え、知恵と工夫によって、情報化を活用した住民主体の新たなまちづくりを目指すものとする。

・基盤整備促進(農道「農道環境整備」)

本地域は島根県の南部中国山地の中腹にあり、日本海に流れる江の川が北流し、広島県と接している。気象は、冬期・夏期の温度差が大きく、降水量は年間1,470mm程度である。冬は山間部での積雪は1.5mを越すこともある豪雪地帯である。地域の大部分は山林で占められ農地はわずかで5%程度である。しかも、その多くは山間谷間に点在し、圃場整備等の開発可能地は極めて少ない。

このような自然条件のもと、地域の活性化を進めるため江の川沿いの急峻な地形に開けた棚田を利用し棚田オーナー制度を導入し、交流型農業を展開している。また、川を挟んだ対岸の三次市作木町では、丘陵地に梨農園を開き梨木のオーナー制度を導入するなど交流型農業を展開し、地域の活性化につなげている。

②地域づくりの現状と課題及び今後の展開方向

・情報基盤整備

邑南町は、平成16年10月1日に隣接する石見町、瑞穂町、羽須美村の3町村合併により誕生した。瑞穂地域は平成14年に、公共施設を結ぶ光ネットワークの整備を行ったが、石見、羽須美地域の公共施設は民間の光回線の借り上げで対応している。一般世帯は電話回線によるADSLサービスの提供を受けているが、世帯加入率は20%に満たない状況である。また、中山間地域のため携帯電話やテレビの難視聴地域も数多く存在しており、邑南町の約5割の世帯は共同受信施設を地域ごとに整備してテレビを視聴している。2011年には現在のアナログ放送が地上デジタル放送に完全移行されることもあり、難視聴地域がさらに拡大されることも予想される。

このような現状のため、邑南町では各戸に光ファイバーケーブルを引き込み、インターネットはもちろんテレビ放送やIP電話等のサービスが受けられる超高速情報通信網(F・T・T・H)の整備を目指している。

FTTHの整備は、合併して広大な地域をかかえる邑南町にとって農業情報や行政情報、住民サービスの向上に最大の効果をもたらし、地域住民の連帯を高め、今後の町づくりに大きな成果を上げることが期待される。

・基盤整備促進(農道「農道環境整備」)

本地域は、川と山に挟まれる地形であり、大型圃場の創設は困難である。又、農業者の高齢化が著しく、さらに地域の若い担い手が不足している状況から

遊休農地の発生が危惧される。

本地区は、古くから隣接する安芸高田市や三次市作木町との交流があり農業者の通作が行われていた。また、本地区から自動車で、安芸高田市の市街地に30分、三次市街地まで20分の距離にあることから、広域的な販売ルートを確立し農産物の販路拡大を行う必要がある。

本地区の今後の展開方向としては、農村の基本的機能を維持し、地域の魅力を高めることにより、若い担い手の定住化を促進し安定的農業経営が持続できるよう基盤整備を行うことと、江の川を挟む地域が協力し合い農地の集積や集団的営農活動が促進されるよう農家間の交流を活性化させ、さらに江の川や豊かな資源を活用し、交流人口を増やし、農業と観光が結びつく新たな農村スタイルの展開を実践する。

③別途作成されている計画・プラン等における位置づけ

・情報基盤整備

「邑南町 e-むらづくり地区計画」の策定にあたっては、島根県のIT戦略、新町まちづくり計画、邑南町地域情報化計画を参考にまとめ、実行にあたっては、住民による「邑南町 e-むらづくり推進委員会」の意見を聴取するなど、あらゆる角度から検討していく。

「邑南町 e-むらづくり地区計画」を達成するために、関係各課と調整を図りながら実現に向けて努力する。

・基盤整備促進(農道「農道環境整備」)

邑南町は、合併後「新町まちづくり計画」を作成し「地域資源を活かした元気な産業の町」をまちづくりの将来像として各種施策を展開しているが、この中で「新しい農業の創造」や「参加・滞在型観光の推進」を主要施策として具現化を図るため本事業もそのテーマに即し実施されるものである。

3. 目標を定量化する指標(数値目標)

	指 標	単 位	定 義	指標設定の考え方(目標との関連性)	現在値	基準年度	目標値	目標年度
必須目標	・ 情報基盤整備 地域の情報受発信量	MB	事業実施地域における、世帯あたりのインターネット情報受発信量	都市部との情報格差を是正し、農業振興等を含んだ多様な分野や行政サービスでの利活用。 $1,374回 \times 0.158MB \approx 217MB$			217 MB/月	H22

	・ 基盤整備促進(農道「農道環境整備」) 農道の整備・保全により条件整備され機能が確保された農地の増加面積	ha	農道環境整備により、条件整備され機能が確保された農地の増加面積	農業生産環境及び交通利便性の機能が確保され、農産物の輸送の合理化が図られる農地面積	(一) 0	H20	(一) 5.3	H22
地域設定目標	・ 情報基盤整備 IT講習会実施回数	回	IT講習会の年間開催回数	住民の情報リテラシーの向上をめざして、地域の各公民館で開催。 12公民館×10回/年=120	90	H17	120	H22
	CATVの加入世帯数	世帯数	事業実施によりCATVに加入する世帯数	地域情報化の中心となるCATVを活用することで魅力ある農山村づくりを推進。 4,600世帯×7割≒3,200世帯	0	H17	3200 世帯	H22
	CATVインターネットの加入世帯数	世帯数	事業実施によりインターネットに加入する世帯数	地域情報化の中心となるCATVを活用することで魅力ある農山村づくりを推進。 4,600世帯×3割≒1,300世帯	0	H17	1300 世帯	H22
	IP電話の加入世帯数	世帯数	事業実施によりIP電話に加入する世帯数	地域内無料のIP電話を活用し、地域間の交流を促進しコミュニティの活性化を推進。 4,600世帯×3割≒1,300世帯	0	H17	1300 世帯	H22
	・ 基盤整備促進(農道「農道環境整備」) 都市住民との交流回数	回	事業実施により、維持できる棚田オーナー制度による年間交流回数	農道橋の機能が回復し、交通利便性が確保されるに伴い、都市住民との交流が維持できる。	(一) 4	H20	(一) 4	H22

(注)「月平均ページビュー数 1,374 回」～2003 年 4 月 ニールセン統計調査参照。

「ホームページ1ページあたり」平均データ量:0.158MB」～2003 年 7 月 総務省情報通信政策研究所「WWWコンテンツ統計調査」参照。

邑南町世帯数 5,180 世帯の内、施設入居者等除く加入可能一般世帯数は 4, 600 世帯。(2006 年 10 月現在)

4. 元気な地域づくり計画の取組方針

取 組 方 針	主な対策
<p>・情報基盤整備</p> <p>① 地域をつなぐ利便性の高い町づくり(情報通信・公共交通)</p> <p>町民がいつでもどこでも短時間で均質な行政情報を共有でき、インターネットを通じてだれもが利便さと楽しさを実感できる町づくりを進めます。</p> <p>安心・安全な地域づくりを実現するために道路情報や災害情報、避難誘導など緊急情報を周知徹底できる体制を構築し、住民の安全を守ります。行政や各種団体からのお知らせ、連絡事項は広報誌だけでなく自主放送やホームページなどを活用することで、より早く必要な情報を手に入れることができるよう情報通信ネットワークを整備します。</p>	<p>【ハード】元気な地域づくり交付金 農村振興支援対策(情報基盤整備)</p> <p>【ソフト】県単独及び町単独事業等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「e-むらづくり計画」住民説明会 ・住民アンケート実施 ・IT講習会の開催 ・PR冊子作成 ・自主放送
<p>② 新しい農業の創造と元気な産業の町づくり(農林業・観光)</p> <p>新しい農業の創造を図るために、インターネットを活用し各種産業との連携と交流を促進し、持続的で魅力ある元気な町づくりを進めます。</p> <p>豊かな自然と地域資源を活かすために各種の情報発信を行い、体験型農業や観光促進を行います。</p> <p>また、市況、栽培技術、病害虫情報等を迅速に提供し、農業生産の効率化や技術の向上を目指し特産品の開発やブランド化を推進します。高齢化、担い手不足が進み農作業等の作業受委託や農業生産組織の重要性が高まっている中、情報通信ネットワークを活用し組織の経営強化、担い手育成、農家の利便性向上を図ります。</p>	<p>【ハード】元気な地域づくり交付金 農村振興支援対策(情報基盤整備)</p> <p>【ソフト】県単独及び町単独事業等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業情報提供 ・IT講習会の開催 ・先進地視察 ・ホームページ活用

<p>③ ころ響きあう自然と人にやさしい町づくり(保健福祉・環境保全)</p> <p>子どもから高齢者まで誰もが住み慣れた家庭や地域で、健康で安心して過ごせるよう保健、福祉の地域ケアネットワークをつくり、いきいきと幸せに暮らすことのできる町づくりを進めます。</p> <p>邑南町の棚田に代表される美しい農村風景や、ハンザケ、ホタル等の豊かな自然を次代に伝えるために、映像情報として発信し、町民はもとより都市住民に農村の魅力をPRします。</p> <p>町民の一人ひとりが、美しい自然の中で安全で安心できる農村環境づくりを目指します。</p>	<p>【ハード】元気な地域づくり交付金 農村振興支援対策(情報基盤整備)</p> <p>【ソフト】県単独及び町単独事業等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主放送 ・生活情報提供 ・ホームページ活用
<p>④いきいきと心豊かに学ぶ町づくり(教育文化・生涯学習)</p> <p>新しい町の未来を担う個性豊かな人づくりと、心の豊かさを実感できる教育環境の整備を目指し、情報通信ネットワークで結び郷土愛に満ちた町づくりを進めます。</p> <p>自らの個性や想像力を高めるためや、国際感覚等を身につけるための生涯学習の機会を、インターネットを通して活動の支援を行います。一人ひとりの人権が尊重され、男女が共に参画する社会づくり、生きる力を育てる教育、先人が守り育てた地域文化の保存、伝承を行い、心豊かな社会の実現を図ります。</p>	<p>【ハード】元気な地域づくり交付金 農村振興支援対策(情報基盤整備)</p> <p>【ソフト】県単独及び町単独事業等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主放送 ・学習コンテンツ配信システム活用
<p>⑤夢語る新コミュニティの町づくり(地域交流・活性化)</p> <p>町民の地域活動への支援と、行政との結び目づくりに情報通信ネットワークを積極的に使い、希望に満ちた新コミュニティの町づくりを進めます。</p> <p>適正な情報提供と、誰もが気軽に参画できる町民ネットワークの整備を進め、コミュニティ活動の推進と支援を行います。また、特色ある地域活動を広くネットワークを通して紹介することにより町民一人ひとりが主人公となるまちづくりを目指します。</p>	<p>【ハード】元気な地域づくり交付金 農村振興支援対策(情報基盤整備)</p> <p>【ソフト】県単独及び町単独事業等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民サイトの新設 ・ホームページ活用

<p>・基盤整備促進(農道「農道環境整備」)</p> <p>①農業生産環境及び交通利便性の機能の確保</p> <p>本地域は、一級河川江の川沿いの急峻な地形に開けた棚田地帯である。そのような地形を利用し、上田・平佐集落においては、平成 10 年度に棚田保存会を組織し、翌年より棚田オーナー制度に取り組んでいる。また、川を挟んだ三次市作木町では、観光梨園において梨木のオーナー制度に取り組む等、相互に地域と県内外との交流型農業を推進している地域である。本農道橋は地域農産物輸送の役割のほか、そのような地域間の交流を円滑化させるための重要な施設でもある。また、地域住民の毎日の生活にとっては、欠かすことの出来ない生活道路でもある。</p> <p>そのようななか、本橋梁は経年変化による損傷が著しく、放置すれば橋梁としての機能を失うだけでなく、集落機能の喪失にも繋がる懸念される。よって、本事業により農道橋の保全を行い機能の回復を図ることによって、集落機能を維持し、交流型農業による地域の活力をより発展させます。</p>	<p>農地基盤整備対策</p>
---	-----------------

5. 本計画の地域住民への周知方法

<p>情報基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「邑南町e-むらづくり地区計画」住民説明会 ・アンケート調査の実施 ・IT講習会の開催 ・冊子作成・広報特集記事 ・先進地視察 <p>基盤整備促進(農道「農道環境整備」)</p> <p>事業実施に伴う地域住民への説明会での趣旨説明や地域広報紙での計画の周知を行う。また、各種の関係団体へ計画趣旨の説明を行い、地域全体での取り組みが実施されるよう呼びかける。</p>

6. 地域住民からの意見の配慮状況

情報基盤整備

- ・「邑南町e-むらづくり推進委員会」を開催し、地域住民からの意見、要望を集約する。
- ・FTTH利活用方策調査委員会の調査報告書を参考とする。(住民アンケート調査実施・H17)
- ・町内公民館に「住民意識調査票」を配布し、意見、要望、将来展望等、自由記入したものを集約する。

基盤整備促進(農道「農道環境整備」)

- ・計画への意見聴取は、事業効果の検討時に住民アンケートを行い、意見・要望等を把握し計画に反映させる。

7. その他特記事項

- ・ユビキタスネットワーク社会における中山間地のFTTH利活用方策調査委員会（財団法人中国産業活性化センター主催）による活用方策調査を平成17年度に実施。(邑南町と美郷町がモデル地域と指定されて実施している)
- ・邑南町の地上波デジタル放送は平成20年に一部の地域で開始される予定。(平成23年7月24日にアナログ放送は全国一斉停波)
- ・邑南町の耕作放棄率(7.4%)は島根県の耕作放棄率(12.4%)を下回っている。(2005 農林業センサス:総農家の耕作放棄地面積/経営耕地面積=耕作放棄率)

8. 添付書類

・情報基盤整備

① 計画イメージ図

・基盤整備促進(農道「農道環境整備」)

① 計画位置図 1/50,000

② 計画イメージ図